

開校70周年を迎えて

大森第六中学校は昨年10月7日に松原忠義大田区長をはじめ多数の地域、保護者の皆様にご臨席を頂き、開校70周年記念行事を行うことができました。



校長室には、昭和22年6月10日付けの本校後援会の方々による請願書があり、公布されたばかりの教育基本法の趣旨から始まるこの文書は、次のように続きます。

「この観点からすると大森第六中学校は、1年生400名を収容しているにも関わらず、小学校に分教場を置くのやむなき現況である。一日も早く独立校舎の建設を実現されたい。」

このような地域の方々の熱い思いにより、間借りして開校した中では、最も早く本校は校舎が完成したということです。

赤松小学校からは、大森六中がよく見えます。間借りして学んでいた六中生は、できあがる木造校舎を毎日楽しみに眺めていたという文章も目にしました。

開校以来、数えきれぬ方々のお力を頂き、幸せな日々を歩んできた本校です。式典では、勉学、運動に励み、常に高い成績を上げてきた大森第六中の伝統を生徒に話しました。

大森六中はこれまで、そしてこれからも地域の皆様の協力に支えられ、区内小、中学校と共に、社会に貢献できる生徒を育成するよう努力をする所存です。今後とも宜しくお願い致します。

(大森第六中学校校長・松尾廣文)

一本の電話

年一度の健康診断のたびに思い出すことがある。

二、三年前、区の保護カウンセラーの女性から、突然電話がかかってきた。「…何か、お困りのことはありませんか?」優しく上品な声で、なりすまし詐欺でないことは確かだった。「もし、お悩みのことがあったら、お話を伺いますか…。」区の担当課に行けば、心配事や悩みを聞いてくれると言うのだ。なんと親切で行き届いた行政の配慮なのか。私は感謝しつつも心身ともにすこぶる健康ですと、ご遠慮申し上げた。それにしても、なぜ私のところに電話があったのか。もしかすると…。私は三、四か月前の健康診断を思い出した。診断の前に提出する書類の問診欄の最後に、『あなたは人のために役に立っていると思いますか?』という設問があり、『思う』『思わない』のどちらかに○をつけるのだ。ハタと困った、難問だ。私はひと様のお役に立っているのか?たとえ人のために役に立っていると自負していても、自分でそう言うのはおこがましいのではとか、そこまで踏み込んだ設問はどうなのかとか、色々考えた挙句、『思わない』に○をついた。担当者はそれを見て、この人は何か悩みを抱えているのかもしれないと心配して、電話をしてくれたに違いない。だが、翌年から、その設問は無くなっていた。

あの時カウンセリングを受けておけば良かったと今にして思う、どんなことを言うのか、いい実体験が出来たのに。

(雪谷石川台・横田嘉夫)

年頭雑感

幼い頃は正月が来るのが楽しみでしたが老いを迎えて新春を迎えるのは又格別の喜びがあり、ともかく、又一年生き延びたと云う感じであり陽気なものではありませんが、妙に切実でありほっとする気分であります。「無事これ名馬」と云う言葉があるが、40才を超えてから無事では無かった。今年85才になる。44才で脳内出血片マヒ障害1級となり55才で狭心症82才丹毒等で入院。現在は難聴と歯医者通いの将に駄馬である。

入院は短い、長く入院すると診療報酬の「入院基本料が下がる」だから2ヶ月ほどで病院を追い出される、収益を上げるために短い入院期間で検査済みにして早期退院させ、ひたすら回転率を上げるので。もはやぼやいても始まらない。

すでに末期高齢者である。この年になると人生の様々なものに大概の見当がついてくる。金、異性、権力、名譽、我欲、等の人生の葛藤の現因になるものにも迷うことなくなり結局は馬鹿げて、つまらないものではないかと思うようになってますが、自分の心の奥底の方では、なお生に執着を感じています。「欲言無予和」(言わんと欲すれど予に和うるものなく)「揮杯勸孤影」(杯を揮して孤しきわが影に勧む)、陶淵明の心境にあります。

しかも「お浄土」が近づいているが常に「メメントモリ」(死を忘れるな)は念頭から離れない。自死するつもりはない。「お迎え」が来るまでゆっくりとしている。“見ろよ青い空 白い雲 そのうちなんとかなるだろう”と、投げ遣りな新春でR。

斑駁け者にて失敬。

(東雪・国府方忠雄)

編集後記

明けましておめでとうございます。皆様にとって、健やかで明るい一年であることを願っています。

戊戌(つちのえいぬ)の年ですが、『戌』字は「茂」に通じ成長が絶頂期にあること、『戌』字は「減」に通じ落ちぶれる状態のことであるともいいうそうです。

良いことが益々良い結果につながり、怠れば衰えるということです。前向きに地道な努力を重ねる年にしたいですね。

編集委員一同力を合わせて、親しまれる多彩な内容の紙面を目指してまいります。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

(上池上・田上潤一)

ふれあい雪谷(創刊・平成2年(1990)12月20日) 年4回発行
(1月・新年号/4月・さくら号/7月・あさがお号/10月・もみじ号/の1日発行)
[発行日] 平成30年(2018年)新年号 1月1日(通巻・第109号)発行
[発行] 地域力推進雪谷地区委員会 [編集]「ふれあい雪谷」編集委員会
[連絡先] 雪谷特別出張所
〒145-0065 大田区東雪谷3-6-2 電話3729-5117 FAX3729-1826
http://www.city.ota.tokyo.jp/chofu/ts_yukigaya/index.html

ふれあい
雪谷

平成30年 1月 新年号 通巻第109号



南雪谷・河野照代さんの作品

今年ももうすぐ一月一七日が来ます。小泊小学校は、昨年拠点としての備えを皆様と連携しながら進めてきました。芦屋の学校で地震時の混乱が少なかつた理由の一つには、地域と学校の日頃からの結びつきが強かつたからといわれています。子供たちに命の大事さと一瞬一瞬を大事にすることに気付きをもたせ伝えていくと共に、防災への備えを今後も進めて参ります。

た。四月に授業が全面再開、五月には学校に避難していらした方も仮設住宅へ移られ、教室での授業ができるようになりました。赴任直後は緊急車両や自衛隊の設置したお風呂で隙間もなかつた校庭も子供たちが遊べるようになりました。秋に校庭で運動会がいつもの年と同じように行えたときには、多くの方が泣いていらっしゃいました。困難を伴いながらも一つ一つ元に戻つていくなか、元に戻らないものが一つあることに気付かれました。それは、亡くなつた方の生命でした。Y君だけは教室に戻ることがありませんでした。Y君の日記は、自分の命の終わりは予測できることばかりではないのだな、生と死の間にはほんの薄い隔てしかなく、いつ死が訪れるとも分からず過ごしていることがあるのだな、と私に静かに教えてくれ、振り返った時に悔いのないように生きよう、と思うようになります。

これは、阪神淡路大震災前夜、芦屋市の小学一年生Y君が書いた一月六日の日記です。Y君は、宿題のあのね帳を書いた後の数時間後、地震による家の倒壊で妹さんと共に帰らぬ人となりました。

このあのね帳は、身の危険を省みず、命と引き換えにしてでもという思いで、Y君のおじいさんが倒壊した家から取り出された思い出の品々の中についたそうです。きっと賢い一年生だったんだろうと想像できるお手本そつくりの丁寧な字にはつと胸を衝かれました。明後日までのご飯も、宿題も丁寧に仕上げて眠りについたのでしょう。でもその宿題を出すことはなかったのです。

四年中は地域の皆様の温かいご支援ご協力を賜りまして誠に有難うございました。本年が皆様にとって明るくお元気で幸い多き年になりあすようお祈り申し上げます。一円が来ると神山出身の私はいつも思いを新たにすることがあります。

「せんせいあのね‥」

あよう、タがたほくとおかあさんどくわうど、あさつてまでの「はんをつくりました。いやうとは、せうれんそうグラタンとミンチカツをつくり、ぼくがカレーをつくりました。玉ねぎのかわをむいてたら目がすこしいたくなつたので目をとじてねきました。おかあさんに、にんじんのらんぎりをおしえてもらいました。そのとき、ひだり手のおやゆびがねこの手になつていなかつたので、ちゅういされました。玉ねぎをいためながらりんごをすつたりにくをいためたりしました。いそがしくて大へんだったけどのしかつたです。あした、たべるのがたのしみです。一

新しき年の防災と安全を願つて



昭和48年2月、日銀金沢支店から本店勤務に戻つて来た折、雪谷大塚町家族寮に入居した。そして50年5月、洗足池駅に直近のマンション竣工を待つて転居。以来、古里の地銀経営に関わつて留守をしたこともあるが、此処「雪谷地区」住まいが続く。

居室から大田区全域を眺望できる。つまり区域の端っこであるが、公共施設の貧弱さにさえ目をつぶれば、東急池上線の電車が絶えず走つていて都心へ出るのが便利だし、自然豊かな洗足池や名医が居る荏原病院の存在など何とも住み良い街である。



流し雛家鴨の水尾に揺れながら
をとめごの舟爾宜の舟推流し

現在はなくなつたが、洗足池早
た。和歌山加太の淡島神社や鳥取
灯籠を池心に運び灯しをり

岸に寄る灯籠の灯のほそきかな

每十日裏元の三、後支每

どうぞ洗足池へお出掛けを。

卷之三

「学ぶ」楽しさ

私が世界遺産に興味を持ち始めたのは、7～8年前のことである。海外旅行ではぜひフランスのモン・サン・ミッシェルに行きたいと思い、資料を集めているうちに、ここが1979年に世界遺産に登録されていることを知った。

これを機会に世界遺産を学習してみようという思いになった。既に還暦を過ぎた年齢からの、新たな学びがスタートした。関連の書籍やパソコンで毎日漠然と学習していたが、何か具体的な目標を持ち、それを目指して学んだ方がより知識が浸み込むのではと思い、世界遺産検定の受験に挑戦。当時900件近くある遺産の学習を系統的にはじめた。毎日毎日机に向かいながら。時には日本はもちろん海外への旅をしている気分になつた。厳島神社の大鳥居を船でくぐり、時にはエジプトのピラミッドの傍らに立った。楽しくて仕方がない。次第に世界遺産の魅力にひかれていった。平成27年には洗足区民センターで世界遺産をもつ国に関する講座にも出席した。



世界遺産検定は2年かけて1級を踏破した。試験会場では私と同年齢との人は見当たらず20代、30代が多かったが、何だか小気味よさを感じた。何十年かぶりの受験に爽やかな緊張感すらも覚えた。海外旅行に行ったことがない私だが、多くの国々の素晴らしい文化・自然遺産に触ることができたのだ。思わず発見に驚き、心ときめかせた。学ぶということは何歳になっても楽しい。

もうすぐ古稀、更に新たな学びを見つけた。雪谷文化センターで行っている手話ダンスである。手話に門外漢の私にはなかなか手強い。さて、どうなるのか。技能や健康維持だけではなく、先生、先輩方との心の繋がりにも期待している。学びが様々に広がることを思うと心弾んでいく。

スポーツ都市宣言記念事業第34回大田区区民スポーツまつり 雪谷地区9自治会スポーツまつりのご報告

平成29年10月1日（日）池雪小学校にて今年も雪谷地区9自治会スポーツまつりが開催されました。今年のスポーツまつりは、天候にも恵まれ、小さいお子さんから年配の方まで1000名を超える方に参加して頂き、大いに盛り上りました！！

優勝：南雪谷自治会 準優勝：東雪谷東中自治会 第3位：小池自治会
参加・ご協力ありがとうございました！！